



帰国生の学校選び A to Z

●第39回●

帰国生入試に英語力は重要？

帰国生入試では英語力がとても重要と思われがちですが、実際はどうなのでしょう。たしかに大学入試では、慶應義塾大のようにSATやTOEFLなど英語力を要するテストでの高スコアが合否の決め手になる大学もありますが、中学入試や高校入試では決してそうではありません。

多くの中学校の入試科目は国語・算数ですし、理科・社会が課される学校もあり、日本語での学力が合否を左右するといえます。また、中学編入や高校入試・高校編入では入試科目の多くは国語・数学・英語ですが、英語力が合否の決め手になるわけではなく、国語や数学の成績(=日本語での学力)も合否に大いに影響します。つまり、合格するためには、日本語での教科学力に磨きをかける必要があるのです。

一方で、中学入試でも英語を課す学校が一部ありますし、高校入試でも英語を重視する学校や、英語のみで合否判定を行なう学校もあります。また、英語の試験問題は中学校で履修する内容ではなく、TOEFL形式で出題する学校もあります。さらに、国際基督教大学高校のように、英検準1級以上の合格者、TOEFL iBT 79以上の者、TOEIC 730以上の者には推薦入試の受験資格を与える学校や、英語の実力のある生徒には英語の試験を免除するという特典のある学校もあります。つまり、英語の実力があれば、負担の軽い入試を受験できるのです。

また、帰国生大学入試においては先述した慶應義塾大以外の大学でも、一次選考において英語力が重要な大学(東京大、京大など)や、出願資格として英語の実力を基準としている大学(上智大、関西学院大など)があります。また、一般入試でもとくに私立大文系学部では英語が合否の決め手になるケースが目立ちます。

このように、英語力を向上させることは、将来の進路にとって重要です。話は少々異なりますが、大学卒業や大学院進学、また企業での就職や昇進の際の必要条件としてTOEFLやTOEICなどのスコアを要求する動きも出ています。せっかく英語圏の国に滞在する機会を得たのですから、英語力を極力伸ばしたいものですね。



執筆者：丹羽 筆人 (名古屋国際中学校・高等学校 アドミッションオフィサー 北米地域担当)

河合塾での指導経験を経て米国ではCA・NY・NJ州の補習校・学習塾にて指導。現在はデトロイトりんご会補習授業校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験学習「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所アドバイザー、文京学院大学女子中学校高等学校 北米事務所アドバイザー。

お問い合わせ先：E-mail nihs@ujeec.org

Phone & Fax 855-669-9300(名古屋国際)